

2学期の教育活動に関するアンケート（教職員） 結果

領域		質問内容	4	3	2	1	AB合計	目標達成	平均値
1 2 3 4 5	1 教育 課程 全般	①「気づき考え実行する」子どもを育てよう意識して教育活動を計画し、実施してきた。	3	2	1	0	83%	◎	3.3
		②授業時数は的確に管理され、第2学期の時数については、適切に実施した。（現時点までの）	5	0	0	0	100%	◎	4.0
		③朝の活動（新聞タイム、読書タイム、計算タイム、漢字タイム）は計画的に確実に実施した。	2	2	0	0	100%	◎	3.5
		④一日の見通し期待をもたせる朝の会、一日の振り返り明日の見通しをもたせる帰りの会を短時間の中で適切に実施した。	1	3	0	0	100%	◎	3.3
		⑤清掃指導では、子どもと共に活動し範を示して、実際の姿勢や動きで清掃の仕方や活動への臨み方を指導した。	2	1	2	0	60%	●	3.0
6 7 8 9 10	2 各科	①各教科に応じた主体的な学習の仕方や学習規律を一人一人に身に付くよう指導した。（各学年に応じた「学び方」の習得）	0	5	0	0	100%	◎	3.0
		②ノート指導を継続的に行っている。	1	4	0	0	100%	◎	3.2
		③個に応じたきめ細かな指導の充実を図り、子どもに基礎的な学力が身に付く指導を行っている。	0	4	1	0	80%	◎	2.8
		④「活用する力」の育成のために、具体的な手立てを実践した。	1	2	2	0	60%	●	2.8
		⑤図書や新聞を活用した読書の充実を行った。	0	5	0	0	100%	◎	3.0
11 12 13 14 15	3 道徳	①年間計画に沿ってほぼ予定通り道徳科の時間を確保した。（時数・内容）	3	1	0	0	100%	◎	3.8
		②道徳性を育むために、自己を見つめること、物事を多面的・多角的に考えることを押さえた授業を構想し、実践した。	1	2	1	0	75%	●	3.0
		③問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習、読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習などを工夫して実践した。	1	2	1	0	75%	●	3.0
		④道徳ノートを活用し、自分を見つめさせたり、振り返りをさせたりした。	1	3	0	0	100%	◎	3.3
		⑤別様等を活用し、他教科、領域などとの関連を意識し、「気づき考え実行する」といった道徳実践につながる授業を行った。	2	2	0	0	100%	◎	3.5
16 17 18 19	4 特別 活動	①学級活動において、活動的な内容を取り入れたたり、話し合いによる計画の立案をしたりするなど子どもたちが自主的な活動ができるようにした。	0	5	0	0	100%	◎	3.0
		②望ましい集団や人間関係を築くための学級づくりが意欲的に行われた。	2	2	0	0	100%	◎	3.5
		③行事やクラブ活動において、子どもの創意工夫を生かしながら活動が行えるよう指導を工夫した。	2	3	0	0	100%	◎	3.4
		④縦割り活動による活動を充実させ、異学年間での豊かな人間関係の育成を図った。	4	1	0	0	100%	◎	3.8
20 21 22	5 学習 総合 時間 的な	①子ども一人一人が課題を見つける時間を確保し、見通しをもって活動することができるようにした。	0	2	0	0	100%	◎	3.0
		②子どもの思いや願いに寄り添う具体的な支援を工夫した。	0	2	0	0	100%	◎	3.0
		③資質・能力の育成の視点を明確にして、認識の高まりを意識した指導をした。	0	2	0	0	100%	◎	3.0
23 24 25	6 外国 語 活動	①担任も授業の中で積極的に英語を使い、ALTとやりとりをした。	1	1	2	0	50%	●	2.8
		②ALTに任せる場面以外（授業の始めと終わり、切り替え）は、担任が主導して授業を進めた。	0	1	1	2	25%	●	1.8
		③その時間や単元の終末でのゴールを明確にして授業をした。	0	1	2	1	25%	●	2.0

26	7 生徒 指導	①生徒指導定例会での話し合いをもとに細やかな指導を行った。	2	3	0	0	100%	◎	3.4
27		②いじめ・不登校の防止のための取組を子どもの実態を踏まえて具体的に 行った。	1	4	0	0	100%	◎	3.2
28		③子どもの学習や生活面での悩みについて適切に相談が行えた。	3	2	0	0	100%	◎	3.6
29		④日常的に生徒指導上の課題を職員室などの場での話題とし、「報連相」 を実践した。	3	2	0	0	100%	◎	3.6
30		⑤生徒指導に関して自ら積極的に現状を知ろうとし、日常的に関わり、具 体的に取り組むことで組織的に対応できるようにした。	1	3	1	0	80%	◎	3.0
31	8 保体 健全 向上	①子どもの実態を踏まえ、体育の授業で「運動身体づくりプログラム」の 実践し、技能の習得や体力の向上向上に取り組んだ。	3	1	0	0	100%	◎	3.8
32		②日常生活指導や避難訓練等の行事を通して安全教育の充実を図った。	2	3	0	0	100%	◎	3.4
33		③学区内の危険箇所や安全な登下校の仕方を具体的に指導した。	3	2	0	0	100%	◎	3.6
34		④教室の環境や安全点検担当箇所で危険だと思われる所を確認して、事故 の未然防止につとめた。	3	2	0	0	100%	◎	3.6
35		⑤養護教諭と連携し子どもの健康増進・衛生管理について指導を行った。	3	2	0	0	100%	◎	3.6
36		⑥養護教諭と連携し、食育を推進し、教科等や給食の時間における食に関 する指導、個別的な相談指導などを実施した。	3	2	0	0	100%	◎	3.6
37	9 教職 向上 としての 資	①現職教育、各種研修会等の機会を生かし、自ら研鑽した。（研修への積 極的な参加、ライフステージにあった適切な研修など）	3	3	0	0	100%	◎	3.5
38		②協力指導体制のもと、多くの目で子どもたちを見つめ、協力して教育活 動を実践することができた。	3	3	0	0	100%	◎	3.5
39		③教員と保護者との連携について、教育公務員として一定のルールのもと で適切に行うことができた。（教員と保護者間の禁止行為の理解、守秘義務）	5	1	0	0	100%	◎	3.8
40		④個人情報に関する共通理解事項を守り、実行することができた。（個人 情報に関わるものの適切な管理、個人情報の校外への持ち出しの禁止等）	5	0	1	0	83%	◎	3.7
41		⑤校内の服務倫理に関する規定（共通理解事項）をしっかりと理解し、自 ら不祥事防止のための意識付けと実践を行った。	3	2	1	0	83%	◎	3.3
42	と の	①保護者（地域）へ学校・学年の方針や日々の教育活動等の情報を発信し てきた。	2	2	1	0	80%	◎	3.2
43		②地域の人材や自然を活用し特色ある教育活動を行った。	1	4	0	0	100%	◎	3.2
44		③保護者（地域）と信頼関係を築くよう努めた。	3	2	0	0	100%	◎	3.6

【結果】

- ・全44項目中37項目で目標を達成できた。（1学期37／44）
- ・新たに課題となった項目は「5 清掃指導」「12、13 道徳科の授業」、「25 外国語科のゴールの明確化」である。
- ・継続して課題となったのは「9 『活用する力』の育成のための具体的実践」、「23、24 外国語活動における担任が主導する授業展開」が挙げられる。

【考察】

- ・外国語科、外国活動については研修を行ったことで、目指すべき授業像を具体的に捉えることができ意識は高まったが、実際に授業場面で改善が思うように進んでいないことの表れと考えられる。道徳科についても、評価が学期ごとになったことで、毎回の道徳科の指導のあり方を厳しく振り返るようになったことが考えられる。継続を基本としつつ、課題に対して具体的改善に各自が着手する。